

P.1・文部科学省「地(知)の拠点整備事業」に採択
・伊勢湾海洋調査実習を実施

P.2・サマースクール2014を開催
・みえアカデミックセミナー2014で講義
・ボランティアで四日市市長への表敬訪問に同席

P.3・地域貢献企業やNPOの魅力発信
・社会教育実践交流広場「地域と関わる学生」に参加
・第一期卒業生が「環境特殊講義」に登壇

P.4・「環境フェア in 四日市大学」を開催
・「全国学生対抗円ダービー」全国9位と17位に
・2014年「日本留学アワーズ」に2年連続で入賞

文部科学省「地(知)の拠点整備事業」に採択

7月25日(金)地域社会と連携した大学の取り組みを文部科学省が支援する「地(知)の拠点整備事業」に四日市大学の取り組みが採択された。

事業名は、「産業と環境の調和をめざす四日市における人材育成と大学改革」で、三重県と四日市市との連携が進められ、2018年度までの5年間、継続して取り組む。四日市市の田中俊行市長は定例記者会見において、「四日市大学は、学内の体制づくりやカリキュラム改革と同時に、県や市、経済界など関係機関との連携を深めていくことにしている。市としても今まで以上に産学官の連携強化を図っていききたい」と述べ、同席した岩崎恭典副学長は、「より地域に有利な人材を輩出できるように大学改革をする」とした上で、「地域を教室にするような講義を増やし、地域で学生を育ててもらえるようにしたい」と話した。

本事業は、文部科学省が昨年度より始めた事業で、今年度は、全国の大学や短大から237件の応募があり、本学を含む25件の事業が選定された。この事業のため、四日市商工会議所、三重県中小企業団体中央会、三重県中小企業家同友会、三重銀総研などが加わり、運営協議会を学内に設置。地域で重点的に取り組むべき課題を「産業振興」「環境教育」「人材育成」とし、それらを推進する「協創ラボ」「学生情報局」「わかもの学会」「地域インターンシップ」「学生ボランティアセンター」などの取り組みを進めていく。今回の採択は、こうした本学の使命と課題を達成するための大きな後援になるものだ。

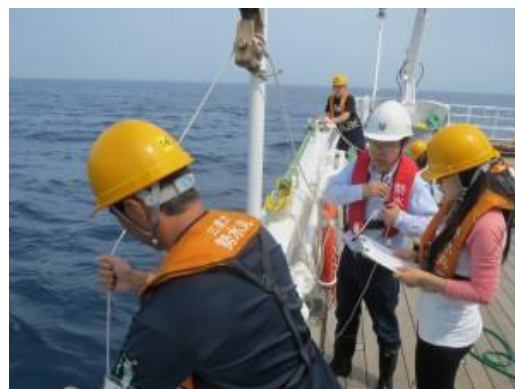


伊勢湾海洋調査実習を実施

7月23日(水)から25日(金)までの3日間、今回で6回目となる伊勢湾海洋調査実習を実施した。これは、三重大学生物資源学部の練習船「勢水丸」を共同利用し、2泊3日で伊勢湾から熊野灘を往復し、海の環境問題を学ぶもの。本格的な海洋調査を学生に体験させたいという四日市大学の希望と、大学間連携・地域貢献活動を広げる三重大学の方針が一致して実現しているもので、今年度は学生18名と教員3名が参加した。

松阪港を出港し伊勢湾中央部で観測を行い、その後、湾外に出て漂泊した。2日目は、太平洋から伊勢湾内に向かって直線上に設定した観測点で調査を行い、伊勢湾岸内外の環境の違いを測定。湾長軸方向の観測線と横断方向の観測線で行い、CTD装置(水温・塩分・水深・植物プランクトン量等を測る装置)による水質調査、採水調査、採泥調査、プランクトンネットによる調査、けた網(底引き網)によるベントス調査、ADCP装置(超音波式流速計)による流動調査などを行った。

台風の影響でウネリが強く、海の様子は昨年と比べ異なる部分が多く、興味深いデータを観測することができた。また、「勢水丸」の船員の方々のご協力によって、海洋調査の基礎を学び仲間同士で友情を深めるよい機会になった。



サマースクール 2014 を開催

7月24日(木)と8月8日(金)の両日、高校生に大学での専門的な学び体験してもらうイベント「サマースクール 2014」を環境情報学部の主催で実施した。

環境コースとメディアコースの2コースを用意し、環境コースでは本学の実験実習棟にて、土に備わる恒常性(ホメオスタシス)の仕組みやその役割について、参加者が家から持ち寄った庭や公園などの身近な土壌の機能を調べる実験を行った。一方メディアコースでは、本学の学内スタジオにて、四日市商業高校の軽音楽部2年生4名の女子バンド「SKy CiruS」が、人気急上昇中のガールズバンドFLiPの『カートニアゴ』を元気いっぱい演奏、それらを参加者の高校生が映像、照明、音響技術を駆使し、プロモーションビデオ(PV)制作を体験した。参加した高校生にとっては、大学での学びの一端に触れる良い機会となった。



みえアカデミックセミナー2014 で講義

7月30日(水)三重県生涯学習センター主催の恒例事業である「みえアカデミックセミナー2014」で、四日市大学公開セミナーを開催した。本セミナーは、三重県内の高等教育機関14校が持ち回りで、それぞれひとつずつ講義を担当し、三重県民の知的探究心に応える高度な学びの場として、広く認知されている。

本学は、経済学部の鶴田利恵准教授が講師を務め、「日本の貿易自由化を考える」というタイトルで約2時間の講義を行った。当日は、多数の受講者で会場は満席となった。

講義では、世界のこれまでの貿易自由化に向けての背景や連携の状況に触れ、それらを踏まえた日本の今後の展望についてを、講師の見解も含めて詳しく説明した。TPP交渉や日本のFTA・EPA戦略など専門的な内容をわかりやすく丁寧に話す鶴田先生の講義に会場中が引き込まれ、終了後の質疑応答では時間が足らなくなるほどであった。主催者からは、「アカデミックな好奇心を満足させてくれた」という言葉をいただき、好評のうちに講義は終了した。



ボランティアで四日市市長への表敬訪問に同席

四日市中央ライオンズクラブが実施する国際交流企画に、近藤勇人さん(環境情報学部4年)、チャン・ヴァン・アンさん(経済学部4年)ホァン・フーン・タオさん(経済学部4年)がボランティアとして参加し、四日市市長及び四日市市議会への表敬訪問にもオブザーバーとして出席した。

これは同クラブがスウェーデンからの派遣留学生として迎えたアンバーさんの滞在中に、各地訪問への同行やイベントなどのお手伝いを通じて、国際交流を図る機会をご提供いただき実現した。

表敬訪問当日、アンバーさんは華やかな浴衣姿で現れ、四日市市の田中市長や四日市市議会の中森議長、樋口副議長との歓談を楽しんだ。歓談後には、市議会の議場をご案内いただき、普段見られない光景に、一同は興奮気味だった。最後は、四日市市役所の食堂で昼食を共にした。10日間という短い間だったが、アンバーさんと学生達はすっかり打ち解け、旧知の友人同士であるかのように別れを惜しむ姿が印象的であった。なお、この様子は四日市ケーブルテレビCTVで放映された。



地域貢献企業や NPO の魅力発信

四日市大学と三重大学の学生グループ「ガクレポ」が、三重県内で地域貢献に取り組む企業やNPO法人の情報をインターネットで発信、紹介する活動を行っている。企業の社会貢献活動や、企業とNPOとの連携・協働を促進するために、学生自らがレポーターとなって、現場で取材・調査し、感じ取った魅力を記事にして三重県のホームページに掲載している。

この取り組みは、三重県男女共同参画・NPO課の呼びかけで集まった企業、大学准教授、NPO法人らで構成する「NPOと企業のパートナーシップ促進ワーキンググループ」が主催しており、活動を通じて、学生等の若い世代が、地域の魅力的な企業やNPOの存在について知る機会を作るとともに、学生のコミュニケーション能力、聞き出す力、情報をまとめる力を得る機会につなげることを目指している。

グループの記事は現在、三重県男女共同参画・NPO課NPO班のホームページにある「NPOと企業のパートナーシップ促進事業」の項目から閲覧できる。

社会教育実践交流広場「地域と関わる学生」に参加

8月27日(水)三重県教育委員会等の主催により平成26年度社会教育実践交流広場「地域と関わる学生」が、三重県総合文化センターにて開催され、本学からは、大学周辺の団地で定期的に清掃活動しながらパトロールを行っている「地域パトロール」と経済学部東村ゼミからは、ゼミ生で設立した「模擬会社夢追プロモーション」の2団体が参加し、実践概要を発表した。

地域パトロールは、メンバーの宮崎香奈さん(総合政策学部2年)と光部達哉さん(総合政策学部1年)が参加し、パトロールの際に実際に使用する緑色のユニフォームを装着し、活動内容の説明を行った。宮崎さんは、「このような機会を通じ、自分たちの活動をより多くの人に知ってもらうことで、関心を持ってもらうことはとても励みになります」と話した。一方の夢追プロモーションは、商店街の支援企画といった街を元気にする取り組みなどを紹介した。



第一期卒業生が「環境特殊講義」に登壇

7月18日(金)環境情報学部の第一期の卒業生であり、現在は、大学共同利用機関法人・人間文化研究機構・総合地球環境学研究所の研究員として活躍中の渡辺一生(農学博士)氏が「グローバル市場と東南アジアの農林業・地球環境問題」をテーマに講義を行った。

講義では、最初にエコロジカル・フットプリントの考え方を紹介し、「私たちの消費が世界各国の環境に影響を与えている」と説明。そして、これまでに同氏が取り組んできたインドネシアの泥炭湿地の環境問題を詳しく紹介した。「泥炭湿地に造林するために企業が乾燥化を行っていった結果、多くの火災が生じており、現在インドネシアの二酸化炭素放出量は世界第3位となっている」とのこと、そして、「インドネシアで生産された木材やアブラヤシは日本にも輸入され、消費されている」と訴えかけた。受講者からは、「講師が実際に現地に滞在して経験をしたことがベースになっているので説得力があり、非常に素晴らしい講義だった」「資源不足の我が国にとって、東南アジア各国を大事なパートナーとして認識し、互いの国の将来に目を向けて、友好関係を持続していかなければならない」などの感想が寄せられた。また、終了後の講義室では、学生時代に所属していた新田ゼミの卒業生と在学生在が集まり、旧交を温めていた。



「環境フェア in 四日市大学」を開催

8月9日(土)、第11回「環境フェア in 四日市大学」が開催された。この催しは、四日市で事業を展開する(株)東産業が市民参加型の環境イベントとして継続してきたもので、11年目となる今回は本学と共催し、四日市大学のキャンパスで開催することになった。地元四日市の朝明中学校や山手中学校の吹奏楽部の演奏、サラナ保育園の和太鼓演奏、ゴミ0レンジャーの活劇、その他にも環境関連のブースが立ち並び、クイズ、体験イベント、パネル等で来場者を楽しませた。見事な昆虫の標本、地域の貴重な動植物の写真集などの展示もあり、各団体が環境問題の改善のために続けている地道な活動の様子が伝わる内容であった。

環境情報学部では、切り紙細工、顕微鏡体験、水質分析、学生制作のゲーム、電子工作、環境関連のパネルの展示、学生映像制作グループ『ETV よっかだい』は、制作作品「貝から伊勢湾を考える」の上映、貝合わせ(昔の神経衰弱ゲーム)などを出展した。

当日は、台風11号による天候で、やむを得ず参加を見送った団体もあったが、それでも20を超える団体(市民団体、自治体、教育機関)が出展し、約800名の親子連れの出場者で大いに盛り上がった。



「全国学生対抗円ダービー」全国9位と17位に

8月30日(土)全国の学生がチームで円相場の予想を競う日本経済新聞社主催「全国学生対抗円ダービー」の最終結果が発表された。全国各地から大学48校、高校15校、中学4校の計445チームが参加し、本学からは経済学部2チームが参加した。

「全国学生対抗円ダービー」とは、東京外国為替市場の円・ドル相場を根拠を示して予想をし、実際の相場と予想相場の差が最も小さかったチームを競うもの。14回目を迎えた今大会は、5.6.7月末の円ドル相場がターゲットであり、ウクライナ情勢や日本やアメリカの経済指標をにらみながらの狭いレンジで動く、方向感を読みにくい難しい相場展開ではあったが、学生達は、これまでの授業やゼミで培ったノウハウを駆使し、予想値を導き出していった。そして最終結果では、9位と17位に入り、出場した経済学部2チームとも見事20位以内に入り大健闘した。

2014年「日本留学アワーズ」に2年連続で入賞

日本語学校教員を主会員とする財団法人日本語教育振興協会が実施する「日本留学アワーズ」大学文科系部門で、本学の留学生支援センターがノミネートされた。全国の日本語学校約400校の教職員が外国人留学生に勧めたい大学・専門学校等を選ぶもので、大学文科系部門や大学理工系部門などの4つの部門で投票し、東西の地域別に決定している。

今回は、大学文科系部門の西地区で、立命館アジア太平洋大学、関西大学、関西学院大学、大阪成蹊大学、愛知大学、四日市大学の6大学が選ばれた。「留学生に優しい環境(システム、教育内容、サポート体制)」が整っていることが、日本語学校の進学指導者などから評価され、2年連続の受賞につながった。

これまでのPick Up Topicsはホームページでご覧いただけます。

<http://www.yokkaichi-u.ac.jp/examinee/topic.html>



「四日市大学 入試広報室(YokkaichiU)」
入試情報や最新のニュースを掲載しています。

学校法人 暁学園 四日市大学

【発行】入試広報室

〒512-8512 三重県四日市市萱生町1200

TEL:059-365-6711 FAX:059-365-6630

<http://www.yokkaichi-u.ac.jp/>

<http://smile.yokkaichi-u.ac.jp/> (受験生サイト)

